2018 年 5 月 13 日

No. 4

浦上キリシタン流配１５０年(２０１８～２３)
ニュースレター

5月３日 乙女峠まつり／白浜司教 説教

「浦上キリシタン流配 150 年(2018～23)」開始宣言！

皆さんもご存知のように、今年は明治維新から 150 年に当たります。その 1 年前に起こった浦上四番崩れによって、長崎・浦上村の 3000 人を超える信者の方々が捕えられ、西日本の 22 箇所に流配されてから 150 年にも当たっています。明治維新から 150 年、また浦上四番崩れによる流配開始から 150 年というこの節目に当たり、広島教区では浦上の信者が流配されてから、再び浦上の地に帰還することができたこの 5 年間を追憶して行くために、今日(5 月 3 日)から 2023 年 5 月 3 日迄の丸 5 年間を「浦上キリシタン流配 150 年(2018～23)」と位置付けて、彼らの顕彰活動を行なっていきます。そのことを今日、広島教区長として、正式に皆さんにお伝えしたいと思います。

「浦上四番崩れ流配地連絡会」を今後も継続！

そのスタートとして昨日、山口市内で「浦上四番崩れ流配地連絡会」を開催することができました。長崎教区・浦上教会を始め、流配地 22 箇所を管轄している名古屋教区・京都教区・大阪教区・高松教区・鹿児島教区、そして、流配地が最も多い広島教区の関係者の方々が約 30 名集まって、初めての会合を開きました。それぞれの流配地で、どのような出来事があったのかを報告して頂きました。また、浦上キリシタンが流配され苦難を受けたことは、信教の自由を認めなかった明治政府に大きな影響力を与えたことを、互いに確認し合いました。そして、このことを風化させないために、今後も各地で調査を続け、それを分かち合うために「浦上四番崩れ流配地連絡会」を続けて行きたいという意向が示されました。

津和野殉教者の列福申請に向けて！

私たちは今、日本の社会で自由に信仰を持つことができます。しかし、世界を見渡してください。近くの国々のことを思い起こしてください。そこには、まだ、自由に信仰をすることができない状況があります。

私たちは、浦上の流配者たちを顕彰しながら、できればこれらの方々を列福し、そして列聖することを通して、①世界中に信教の自由が認められること、②また、一人ひとりの命が大切

にされること、③そして、互いに受け入れゆるし合う、とくにこれら３つの精神が世界中に広がっていくために、この津和野の殉教者を（浦上四番崩れで苦難を味わった方々の）代表としてローマに列福申請することを、連絡会に参加された皆さんは、同意してくださいました。最終的には、７月の中旬に日本の司教様方が集まっておこなう司教総会の中で、津和野の殉教者を、浦上四番崩れ流配者の代表としてローマに列福申請をしてよいかどうかの最終的な判断が行なわれることになります。ただ、他の流配地で亡くなられた方々もすべて綿密に調べて列福申請することは望ましいことなのですが、非常に難しい面が有ります。これらの方々も含め、その代表として、津和野の殉教者を列福できるように、皆さんのお祈りをお願いしたいと思います。

切っ掛けは 浦上キリシタンの苦難から

私たちは、ここ（乙女峠）に来る前に聖母行列を行ないました。そのときに、私は心の中で「何と平和な社会を与えていただいていることか！」と感激しました。行列開始の前に、津和野町の町長様が教会に来られて挨拶してくださいました。道路の真ん中を通りながら、警察官が交通整理をして、私たちを誘導してくださいました。道行く家の方々は、ドアを開けて私たちを見守ってくださいました。中には花びらを撒いてくださる方もおられました。

本当に皆が自由で、それぞれを大事にしながら支え合う、このような日本の社会が誕生する、その切っ掛けが浦上キリシタンの流配者の方々の苦難に有った、そのことを私たちは今日心に留めたいと思います。そして、その前を辿って頂きたいと思います。250 年もの間、司祭・修道者が不在の状況であり、また、各地で殉教という苦しみを受けながらも、信仰を子々孫々に伝えた潜伏キリシタンがいました。彼らの信仰のリレー、それによって幕末にプティジャン神父と出会うこともできました。また、自由にそれによって自分たちはカトリック信者であるという自覚を持って、浦上のキリシタンたちは流配されて行ったのです。

多くの殉教者によって、またとくに、浦上四番崩れを切っ掛けとする流配者のあの苦難のお陰で、日本の国に信教の自由がもたらされることになりました。私たちは改めて、この恵みを神に感謝したいと思います。

イエス様の業がもっと大きくなっていきますように

「わたしは道であり、真理であり、命である」(ヨハネ 14.6)とイエス様は仰いました。私たちは、このイエス様を信じています。この信教の自由が与えられている恵みを改めて神に感謝するために、今から短い黙祷をおささげしましょう。……（黙祷）……イエス様は仰せになりました。「わたしを信じる者はわたしが行なう業（わざ）を行ない、またもっと大きな業を行なうようになる…」(ヨハネ 14.12)。イエス様の業が、世界中で大きな業となっています。それは信じる皆さんの中で、イエス様が働いてくださっているからです。「道であり真理であり命である」イエス様を自由に信じることができるこの喜びと幸せを、私たちは世界に向けて発信し

ていかなければなりません。教会と共に歩んでくださっている聖母マリアが、恐らくこの地で流配者を慰めたと思われます。この５月に、聖母マリアと今日(５月３日)祝う使徒であり殉教者である聖フィリポと聖ヤコブの取り次ぎを願いながら、明治維新 150 年、また浦上キリシタン流配開始 150 年にあたって、これらの流配者の苦難と模範を、世界中に知らしめるため列福申請ができますように、また、世界中に信教の自由が与えられ、命が尊重され、受け入れゆるし合う心がどんどん広がり、イエス様の業がもっと大きくなっていきますように願いながら、このミサを続けていきましょう。

＜小見出しは編者が付しました＞

復活のマリア(レプリカ)↑

……

▼「明治初期・津和野の証し人　列聖祈願ミサ」…６月18日(月)

所：広島カテドラル

時：14時から「ミサと流配朗読劇(初演／予定)」。ご参加下さい！

問合せ：各教会事務所

▼「四番崩れ解説パネル」教会展示にご参加を！

昨年の津和野・山口・萩での展示の後、今年２月から４月にかけ、岡山～鳥取～島根の各地教会で巡回展示を行ない、皆さんに見て頂きました。

観覧者の感想から少し…（津山教会）高齢の信者の方々が、懐かしく、喜んでおられました。(倉敷教会）信徒発見のきっかけの方が福山流配で、この展示を心待ちにしていました／福山の方。(倉吉教会）ミサの後は大変込み合ってました。(米子教会）乙女峠に流配された方々の写真をこのように一同に見ることができたのは初めてでした。

倉吉教会↑

米子教会↑

津和野教会↑

５月３日の乙女峠祭りでは再度津和野教会で展示しました。その後山口県、広島県でも順次巡回展示出来たらと願っています。その他も含め、希望の教会は肥塚神父（光教会）まで。

▼「流配ロゴ」(1面・掲載)活用をよろしく！

・ロゴについて…「杖」は巡礼のシンボルです。「親子」の姿は信仰に結ばれた家族が一緒に「旅」に出されたことを示しています。（キリシタン達は異郷での過酷な日々を「旅」と呼びました。）そして「十字架」は私達の救い・希望を表します。

《 発行：広島教区 殉教地・巡礼地ネットワーク 事務局 》